

環境都市 日立市に巨大な産廃処分場はふさわしくありません

太平田の湖は天然の防災ダムに

広大な唐津沢の谷間に

今回の処分場は鮎川の上流にある太平田の沢（唐津沢）に計画されました。沢とは、山あいの谷であり、水がたまり流れるところです。「エコフロンティアかさま」のような台地ではありません。そこに石灰岩を掘った跡のくぼ地ができ、水がたまり、湖になっている場所があります。その水をぬき、土砂で埋め立てて、遮水シートを敷く等の工事をして県内外からの産業廃棄物（240万㎡：25mプール4000杯分）を埋めようというものです。

日立市に夢ある「ジオパークを」



鮎川流域は以前より洪水の不安があり、住民から対策を求める陳情が市に出されていました。熱海の土石流災害は人ごとではありません。

今回の処分場計画にある防災調整池は容量も小さく、近年の豪雨対策にはなり得ないでしょう。湖をめぐる美しい渓谷と数億年前の地層はジオパークの候補になります。天然の防災ダムとして整備するという考えもあります。

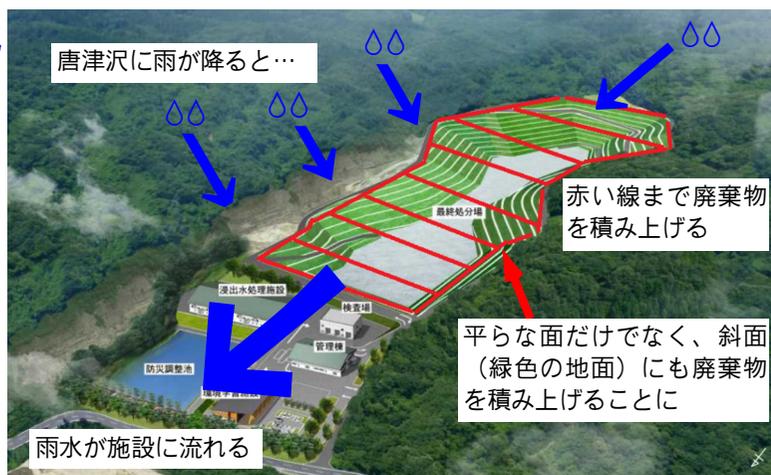
斜面に積み上げた廃棄物が流される心配

斜面に廃棄物を積み上げると流れ落ちる

県は「240万㎡の産廃を埋める」としており、公開されたイメージ図に埋め立て量を当てはめると地面が平らな部分だけでは足りず、斜面（緑色の部分）にも積み上げることになります。

降った雨が処分場に集まり施設に流れる

イメージ図でもわかる通り処分場は傾斜地に囲まれ、集中豪雨の時には洪水が発生し、施設に流れ込む危険があります。



突然の発表（2020年5月）

茨城県は「県内全域から候補地を検討した」と述べていましたが、途中から非公開としていました。その後、大井川知事は突然に「日立市諏訪町の太平田鉱山跡地を新産業廃棄物最終処分場の候補地とした」と発表しました。

選定理由が破綻する（2021年2月）

住民説明会で水害や自然環境、放射性廃棄物、道路環境など様々な問題が出されました。当初の搬入ルートであった県道37号線は通園・通学道路で住民の反対が多く、大型トラックが通行禁止ですが、37号線を「幹線道路の利用で〇」とし、選定の根拠にしていました。

茨城県は2月、「山側道路から新しい産廃運搬用の道路を作る」と述べました。新しい道路の建設費は未定ですが、200億円かかることが予想されます。選定理由である「経費が安く済む」ということはなくなります。さらに、「処分場候補地は2車線以上の道路から1km以内の場所」という条件から外れるため選定される理由が破綻します。

決まっていないことが多い（2021年3月）

例えば、「雨量と鮎川の流下能力の関係」について、県は「これから検討する」と回答しました。「防災調整池の規模について」は「専門家と試算する」、「事業費など予算について」も「これから協議する」との回答です。イメージ図は公開されましたが決まっていないことが多いのです。

多賀山地 宝の水源 地下水は大切です —日立の豊かな自然を守りたい—

水源に産廃を埋め立てることは、川の水はもちろん、将来的には地下水の汚染も招きます。候補地の東側には、災害時協力井戸が64ヶ所もあります。

地下水は、何十年、何百年という時を経た貴重な一滴なのです。その水脈は、地下深く網の目のように張り巡らされ、いったん汚染されたら修復は不可能といわれています。東京では上流の乱開発により、地下水は、ほぼ壊滅状態だそうです。

日立の地下水はまだ飲めるのです。未来の水源として守らなければなりません。しかも阿武隈山系からつながる石灰岩層をくぐり抜けた日立の水はミネラルが豊富な宝の水なのです。

この水が示すのは日立の豊かな自然です。水を守れずして日立の発展になるのでしょうか？



地下水が湧き出る「泉が森湧水」

産業廃棄物とは何でしょうか？

Q1 そもそも産廃とは何でしょうか？

産業廃棄物とは、事業活動に伴って生じた産業ゴミであり、有害物質（ダイオキシン類や重金属類など）を含みます。現在の県産廃最終処分場「エコフロンティアかさま」では、福島原発事故によって行き場のなくなった「4000ベクレル/kg以下の放射性廃棄物」を地元の協議、同意により、2011年～2013年の間に受け入れました。県は、「日立では受け入れる予定はない」と言いますが、「受け入れません」と約束をしません。



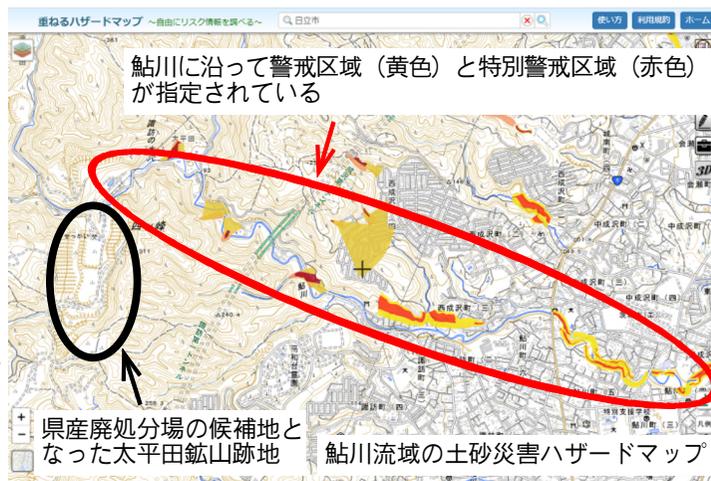
現在の県産廃最終処分場「エコフロンティアかさま」

Q2 どこかには作らないといけないのでは？

企業活動で出たゴミは、企業が責任をもって処分することが基本です（廃棄物処理法）。どこかに作らなければならないとしたら、きちんとした議論と選定が必要です。

太平田から鮎川流域は洪水や土砂災害の危険がある場所です（土砂災害ハザードマップより）。

「県南に大規模工業団地を誘致し、産業廃棄物は日立市に埋める」——これでいいのでしょうか。



Q3 もう決まってしまったのでは？

仮に、市長が受諾表明しても、「もう決まったもの」と考える必要はありません。市議会決議も「安全な施設設備を前提に」としており、前提が崩れれば受け入れは出来ないことになります。

県も市も「環境アセスメント」等、様々な課題への対応や、その検証が残っています。着工には程遠い状態です。



Q4 県の産廃処分場を受け入れたら、未来の日立はどうなりますか？

気候的にも住みやすい日立市の自然を大切に守り、今までの工業都市としての技術・蓄積を多方面に生かしていくべきです。巨大な産廃処分場の出現によって、100年前に公害を克服した国際的な鉱工業都市として「環境都市宣言」を掲げた日立市が、産廃都市日立になってしまいます。

「線状降水帯」の集中豪雨から唐津沢・鮎川を守りたい

2021年5月に連絡会が開催した「市民の集い（多賀市民会館）」では、茨城大学名誉教授の鈴木鐸士さんが講演し、唐津沢が流れる候補地周辺の地形から、集中豪雨が降った際の洪水や土砂崩れの危険性を指摘し、「処分場建設を阻止するしか手立てがない」と訴えました。

6月4日に3回目となる署名提出（15,550筆）を行い、県へ住民監査請求を提出しました。

6月19日にはシンポジウムを日立市民会館で開催し、「県産廃最終処分場建設計画の撤回を求めるアピール」を採択しました。



海・山・渓谷がある自然豊かな日立を守るため これからが私たちの出番です

2020年8月、私たちは「日立市に県産廃最終処分場を作らせない」の一致点で様々な活動を進める「県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会」を立ち上げました。

県は当初、県のスケジュール表を見ても分かるように、3月までに受け入れ表明するよう迫っていました。しかし、未だ受け入れ表明はされておりません。市議会は「安全な施設整備を前提に」と条件付きの議決です。さらに多くの反対署名を積み上げたいと考えていますので、署名へのご協力をよろしくお願いいたします。

▶して頂いた方…ご親戚、お知り合いに広めてください。No! の声を届けよう。

▶まだの方…ホームページからダウンロード、または署名用紙をお届けしますのでご連絡下さい。

カンパのご協力をお願い申し上げます。
振込口座
常陽銀行 多賀支店 (店番 017)
普通預金 県産廃処分場反対連絡会
口座番号 1995334

2021年8月
県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会
代表 荒川照明 090-9845-7019
日立市台原町2-10-10
ホームページ <https://voice2020.bona.jp/>